

職場体験 感想文コンクール2025

タイトル	介護の仕事	事務局	6-6
学校名	酒田市第一中学校	氏名	佐藤明斗

僕は10月上旬2日間を通して「多機能さくら住吉町」という介護事業所に職場体験に行きました。僕は元々、介護事業所に行こうとは思っていませんでした。それまでは保育系の職場体験に行こうと考えていました。

しかし保育園の体験希望者がとても多く、どうしようか悩んでいたときに、友達から「さくら住吉に行かないか」と誘われました。もう行きたい事業所は体験者がほとんど決まっていたので友達と「さくら住吉」に行くことに決めました。そして職場体験一日目の朝、緊張しながら友達と施設に入りました。中に入ると利用者さんが体操をしていました。利用者さんが僕達に気づくと「おはよう」と次々と挨拶をしてくれました。僕達は挨拶をしてもらい少し肩の力が抜けたような感じがしました。

その後職員さんに説明や注意事項を聞いた後、早速利用者さんと会話をする事になり最初は話すことがあなく職員さんから天気などの簡単な話からどんどん会話が発展していく弾んで行くというアドバイスを頂きました。僕達は早速「今日は午後からは雨がふりそうですね」という簡単な会話から発展していき他の利用者さんもその話に乗ってどんどん会話が明るくなっていきました。

そして、気づくと午前の仕事が終わりお昼の配膳をするときに職員さんは利用者さんに合わせて、力が入りにくい利用者さんには軽いコップを使ってもらったり、噛む力がない利用者さんにはミキサーでとろみを付けて飲み込めるようにしたり一人一人に合わせた場合対応をしているということに気づきました。

その後はミーティングにも参加した後、午後からはレクリエーションということでホットケーキを作りました。

僕と友達もホットケーキを焼き、利用者さんはお好みであんこをかけてどら焼きにしていました。

その時に気づいたことが利用者さんだけではなく職員さんも笑いながら見ていたことです。

このような些細な楽しみが利用者さんと職員さんの信頼関係を作っているのかなと思いました。

そして二日目の朝昨日のような緊張感はありませんでした。さくら住吉さんは通いで来る人もいるので日によって利用者さんが変わるので昨日もあつた利用者さんもしればいなかった利用者さんもいたはずなのに、また簡単な話から色々な話になり、「最近はどんなテレビを見ているのか」「高校はどこに行きたいのか」など様々な話になりました。そして利用者さんと一緒にタオルなどを畳み、利用者さんの昼食の手伝いなどをして、職場体験体験は終わりました。

これが僕が体験した職場体験の流れでした。僕はこの職場体験を通して学んだことがたくさんありました。そのなかでも考えたことが二つあります。

まずどんな職業にもやりがいや苦労があるということです。全国には、約1万8000ほどの職業があります。

僕はこの職場体験を経験するまでは、「介護」というものに全く興味がありませんでした。

しかし、僕が知らなくても働いている人のやりがいや苦労、気にかけていることなどは必ずあり

この世の中には必要な職業がたくさんあるということを実感しました。

二つ目は一つ目とも話がつながりますが、この職業でなければ分からなかったと思うことがありました。

今、日本は高齢化社会として介護や介助を求める人や、過疎により地元から離れてしまう人が多いとなっている中で、介護職という職業は必ず必要になる重要な職業の一つです。

「さくら住吉」の職員の人数は小規模型の介護事業所だとはいえ、職員さんの人数が、利用者さんの人数に比べて少ないように感じました。

利用者さんの中には自分で食事をしたりお手洗いにいくことが難しい利用者さんもいる中で少人数で介護をすることはとても大変なように見えました。

そのため、もっと利用者さんが増えても職員さんの人数が足りないと職員さんの労働量の増加と利用者さんが満足な介護や介助を受けられないとどちらも困ってしまうのではないかと心配になりました。

このように学んだことは、もし「さくら住吉」に行っていなかったらずっと興味がありませんでした。

僕にとってこの職場体験はとても有意義なものになりました。

今回の体験で学んだことを体験して終わりではなく、僕の将来の選択肢を増やすことができたと思います。

また体験は将来の職業を決めるときの重要な材料になったと思います。
